

## 県指定がん診療連携拠点病院としての取り組みと今後の展望



▲がん相談支援センター長  
足立医師

新型コロナウイルス感染症は兵庫県内でもまだ発生があり、安心できない状況が続いています。当医療センターでは十分な感染対策を行った上で、通常の外来や入院、手術などの診療活動を行っています。がん相談や患者サロンも行っていますので、今後もマスク着用や手指消毒などの感染対策を行った上でのご来院をお願いいたします。

北播磨総合医療センターでは2019年4月に兵庫県指定がん診療拠点病院に認定され、2020年4月から常勤の放射線治療医と医学物理士が着任しました。10月からはもう1名の常勤の放射線治療医が着任して2名体制となり、さらに充実した体制となりました。今後も国指定の地域がん診療連携拠点病院を目指して、質の高いがんの集学的な治療を提供し、地域の医療機関の先生方と緊密に連携した地域完結型医療の充実を行っていきます。

## 口腔がんについて



▲歯科口腔外科部長  
南川医師

北播磨総合医療センター歯科口腔外科は歯性感染症・顎骨骨髓炎・顔面外傷・顎関節疾患・口腔腫瘍（良性・悪性）・抜歯（難抜歯）などを診療対応疾患としていますが、本稿では口腔がんについての取り組みを紹介します。

2019年に、「私の口内炎は舌癌じゃないですか?」という患者さんがたくさん来院されました。その多くはいわゆる口内炎でしたが、なかにはベーチェット病の口腔粘膜潰瘍や生検の結果扁平上皮癌であったこともあります。

当科の方針は口腔粘膜の分化勾配（turn over period）は約2週間であることを考慮し、受診後も難治性かつ改善傾向にない場合は生体染色検査を併用し、病理組織学的検査を行い早期がんの発見に努めています。また、舌や頬粘膜などの口腔可動粘膜に生じる前癌病変（上皮異形）は悪性転化の危険性があるため切除を推奨しています。

口腔がん治療は早期口腔がん、局所進展口腔がんともに口腔癌診療ガイドラインに準じて、術前各種画像検査を実施し外科切除主体に治療を行っています。集学的治療が必要な場合は、形成外科、放射線治療科、血液・腫瘍内科、リハビリテーション科と連携し治療を行っています。

最後になりましたが、北播磨圏域の顎口腔外科疾患患者さんに安全かつ適切な医療を提供できるように努力していきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



▲難治性舌口内炎であった舌がん（ルゴール染色時）



▲白斑型舌がん



▲内向型舌がん

## 医科歯科連携について

がん診療拠点病院歯科口腔外科では「周術期口腔機能管理」という役割があります。その目的は医科歯科連携の推進を図ることで質の高い効率的な医療を提供することとされています。周術期口腔機能管理の主な対象はつぎのとおりです。

- ①口腔衛生状態不良のため口腔内細菌による合併症（手術部位感染や病巣感染）が予想される患者
- ②手術の外科的侵襲や薬剤投与（化学療法）による免疫低下が予想される患者
- ③人工呼吸管理時の気管内挿管や、脳卒中により生じた摂食機能障害に起因する誤嚥性肺炎の危険性を有する患者
- ④多くの全身麻酔手術患者です。

当科では各診療科単位だけでなく、患者総合サポートセンター（入院時）やがん化学療法室などと密接に連携をとり、多くの患者の口腔管理を行えるよう努力しています。